

タイトル：『汐製菓会社の新作㊦アイス㊦』

シーン：発端

（舞台は汐製菓のオフィス。社長・汐はデスクに座り、アイデアを練っている。秘書の塩田が書類を持って入室する。）

汐：（快活に）「さあ！新作だ！『アイス㊦』の㊦作目だよ、塩田！」

塩田：（書類を片手に困惑顔）「『アイス㊦』の㊦作目？もうアイスだけでそこまで行っちゃってるんですか？」

汐：「そう！今回はさらにすごいぞ！次のアイスは……『エビピラフ味』だ！」

塩田：（一瞬沈黙して）「……エビピラフ…味ですか？」

汐「そうだよ！アイスとエビピラフ、誰もやったことがないコンビネーションだろ！だから」
そ、僕たちがやるべきなんだ！」

塩田「ええと…お客様はそれを喜んでくださるんでしょうか…？」

汐「大丈夫、塩田くん。驚かせることが大事なんだ。面白きことも無き世を面白く！まずは作ってみよう！」

シーン②：味見の悲劇

（試食室で、汐と塩田がエビピラフ味のアイスの試食を行っている。開発担当者が見守る中、塩田は不安そう。）

汐「これが我らの新作、『エビピラフアイス』！さあ、さっそく味見だ！」

（汐は自信満々にアイスをすくい、口に運ぶ。

塩田も一口食べる。）

汐：「……………！！！」

塩田：「うっ……………これは……………（顔が崩れる）」

汐（苦笑しながら）「エビの風味、すごく出てるね……………」

塩田：「出過ぎです……………。お米の冷たさがまた……………奇妙な感じで……………」

開発担当者：「少し塩が強くなりすぎましたかね……………」

塩田：「塩……………田……………です……………」

汐：「塩田くん、革新には失敗がつきものさ！

さあ、次はお客様に試してもらおう！」

シーン③：国内試食会の波乱

（とある大型ショッピングモールの広場で、汐製菓の新商品試食イベントが行われる。ブースには通行人が次々と集まり、エビピラフ味のアイスに興味を持っている。）

汐「さあさあ、新作アイス！『エビピラフ味』をお試しく下さい！一口で新感覚！」

（塩田が後ろから、やや不安そうにブースを覗く）

塩田「社長、本当に大丈夫ですか…？」

汐「大丈夫さ！見て、みんな興味津々だよ！」

（通行人たちが次々と試食をするが、みんな微妙な表情）

通行人A「これ…甘いのか、しょっぱいのか…？」

通行人B「エビの味がこんなに強いなんて…」

塩田：「やっぱり、社長、ちょっと無理があったのでは…?」

通行人ロ：「もう一つもらっていいですか?」

塩田：「えっ!?!リピートですか?」

通行人ロ：「なんか…変な味だけど、クセになるかも。」

汐：「ほらね!最初は驚くけど、慣れればクセになるんだよ!」

シーン④ 海外試食の大挑戦

(別の日、東京で開催される国際フードフェス。多くの外国人観光客が賑わいを見せる中、汐製菓もブースを構えている。汐と塩田が外国人相手に試食を促している。)

汐：「Hello! Try our new 'Shrimp Pilaf Ice Cream'! It's very special!! (「こんにちは! 新

作の『エビピラフィス』をぜひお試しください！
い！とても特別な味です！」

塩田：（心の声）「本当に大丈夫かな、これ…」

（外国人観光客が興味を持ち、試食カップを受け取る。恐る恐る口に運ぶと…）

外国人観光客 1:「What…?（なんだこれ?）」

外国人観光客 2:「It, s… weird but… not bad.（変な感じだけど、悪くないかも?）」

外国人観光客 3:「This is crazy! But kind of good.（クレイジーだけど、なんかいいかも。）」

（汐は自信満々の表情で頷き、塩田は少しほっとする）

汐:「See, salt 田くん！世界中で受け入れられている…」

シーン5: 市場調査とSNSの反響

(試食会が終わり、オフィスでSNSの反応をチェックする汐と塩田。画面に並ぶコメントの数々。)

塩田:「社長! SNSでエビピラフアイスがバズってますよ!」

汐:「おお! ついにきたか! どんな反応?」

塩田:「『驚きの味! でもクセになる』とか、『挑戦的すぎるアイス』って意見が多いですね。でも賛否両論です。『これはアイスじゃやない!』ってコメントも...。」

汐:「ほら、賛否両論こそ成功の証だよ! チャレンジしなきゃ革新はないんだ。」

塩田:「確かに、ここまで話題になってるってことは、挑戦してよかったかもしれませんね...。」

シーンの：海外進出の夢と大どんでん返し

（オフィスで汐が海外の取引先と電話中）

汐「そうだよ、『エビピラファイブ』をアメリカに輸出するんだ！絶対ヒットするよ！」

（塩田が横で心配そうに見ている）

塩田「本当に大丈夫ですかね…？」

汐「世界は広いんだよ、塩田くん！エビピラファイブを愛する人たちがどこかにいるはずだ！」

（電話が終わり、数日後）

塩田「社長！ニュースです！なんと、南極の研究チームがエビピラファイブに夢中になっているそうです！」

汐「南極！？そうか、氷の世界ならアイスの
感覚が違うんだな…！次は南極向けの商品
開発だ！」

塩田「（呆れながら）「また変な方向に…」

ナレーション「こうして汐製菓は、新しい挑
戦を続けるのであった。次なる冒険はペンギン
味のアイス！？汐の奇想天外な旅はまだま
だ続く。」

（エンディングテーマが流れ、幕が閉じる）

終わり